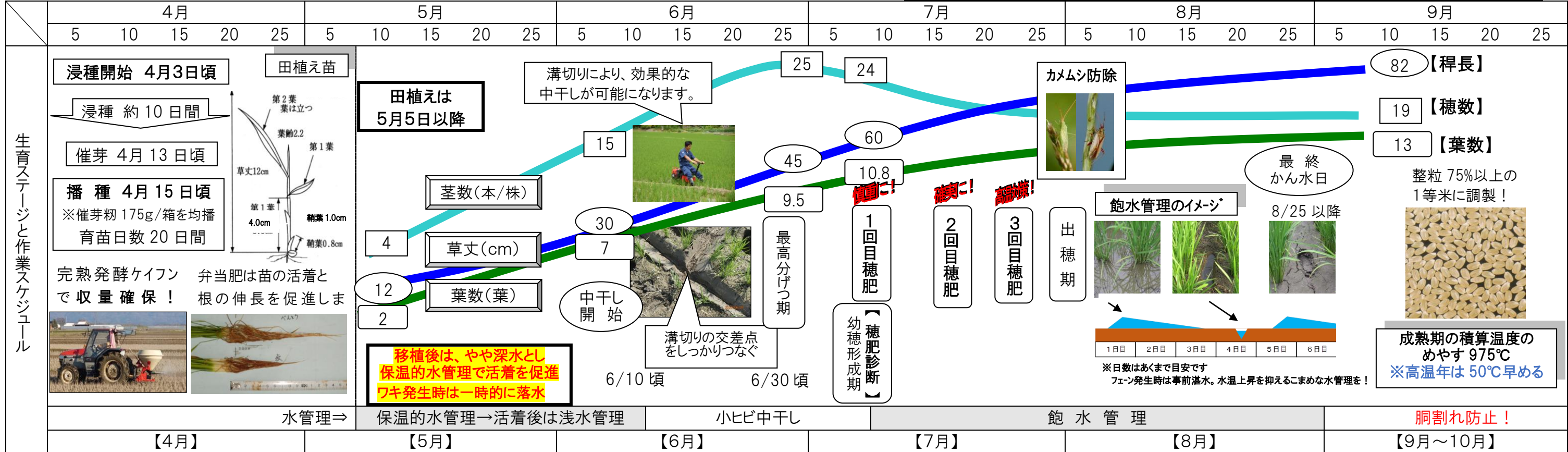


**変動気象に対応した土づくり・初期成育確保・後期栄養確保と基本技術実践で高品質米生産！
品質と安全性で信頼される環境保全型稲作「エコ・5-5 運動」をさらに前進！**

【エコ・5-5 こしいぶき目標値:1 等米比率 90%以上、整粒歩合 75%以上、玄米タンパク質 6.2%】

■目標収量と収量構成要素

収量 (kg/10a)	穂数		1穂粒数 (粒)	m ² 当り粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
	(本/m ²)	(本/株)				
540	350	19(60 株セット)	80	28	88	22.0



■使用肥料と施肥の目安

区分	肥料名	使用基準	10a 当り施用量		
			砂質	中間	粘土質
土づくり	みやぎ有機 (完熟発酵ケイフン)	選択	75kg	75 kg	45kg
	牛ふん堆肥、豚ふん堆肥		0~500kg		
育苗	稚苗苗代配合	いずれか	30g/箱×18箱*		
	中苗苗代配合		35g/箱×23箱*		
田植前追肥	くみあい液肥2号	いずれか	270g(18~23箱)*		
	べんとう肥		360g(18~23箱)*		
基肥	味好2号、フジミペレット731、みらい有機831	選択	0~20kg		
	越後の輝き有機50元肥	いずれか	30kg*		
	フレパ-ペ-スト734		42kg*		
	越後の輝き有機50ス-パ-元肥		47kg*		
ケイ酸肥料追肥・根活性	ス-パ-シリカ、けい酸加里プレミア34、ウオ-ターシリカ、ファイト-アップ	選択	15~40kg (ファイト-アップ 500g1袋10錠)*		
穂肥	味好2号、フジミペレット731	出穂23日前頃	20kg	0~20kg	-
	フェザ- MAX、みらい有機831	出穂3日前迄	15kg	0~15kg	-
	けい酸入りエコ・5-5 専用穂肥	出穂23日前頃	穂肥診断により8kg		
		出穂14日前頃	原則10kg		
	出穂3日前頃迄	高温・葉色低下時 7kg			
			合計 25 kg		

■使用可能な農薬と使用回数 決められた農薬を予防重点で使用してください。

区分	農薬名	使用	使用回数の制限
種子病害の予防剤	タフブロック	必須	-
初期害虫・いもち病の予防剤	GP オリゼリディア箱粒剤	必須	1回(JA 苗処理済)
水田除草剤	一発処理剤	必須	いずれかの剤型1回
	広葉雑草中期除草剤	選択	いずれかの剤型1回
いもち病の防除	ブラシンフロアブル・粉剤 DL・ゾル	選択	いずれかの剤型1回
カメムシ類の防除	スタークル液剤 10	必須	いずれかの剤型1回
	スタークル 粒剤・豆つぶ		無人ヘリ防除区 個人防除区
稲こうじ病防除剤	ドイツホルド-A又はZホルド-(粉剤 DL・水和剤)	選択	-
紋枯病防除剤	バリダシン液剤 5・粉剤 DL・エア-	選択	いずれかの剤型本田5回以内
いもち病防除剤	カスミン液剤	選択	本田2回以内

※農薬を使用する際は、必ず最新の使用登録内容を守ってください。

(農薬確認令和8年3月2日)

■注意事項

①生産工程管理において、著しくJAの栽培指導を逸脱した場合は、「JA米」としての取扱いをしません。②栽培管理における各作業や、肥料・農薬の使用日・使用量等は「栽培管理記録簿」に記載し、指定された時期までに必ず提出して下さい。③「栽培管理記録簿」とあわせて、種子の保証書や生産資材の購入伝票を保管してください。④JA米としての要件は、JAと出荷契約を締結、種子更新100%、2等以上に格付けされた米穀、栽培管理記録簿を確認した米穀、検査時水分15.5%以下です。⑤JA米とJA米以外の米穀は区分して収穫・出荷をお願いします。⑥JA米として出荷された米穀は、JAでの確認後、JA米印が押印され、JA米以外の米穀と区分して扱われます。⑦なお、JAの確認により、JA米の要件を満たさない判断された場合は、JA米として流通されません。

*;上限値。但し、基肥量が上限値未満の場合(分施・全量基肥肥料とも)は、化学合成窒素成分の残量相当量を穂肥として追加施用することが可能です。詳細な施肥量はお近くの営農センターに相談してから施用して下さい。

※特に砂質圃場では基肥や穂肥に有機100%肥料を補完してください。